

# 多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 15年目を迎えた中海・宍道湖の浅場整備 ~ 適合的管理の成果 ~		
水系 / 河川名 : 斐伊川水系 / 宍道湖・中海	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 2540km <sup>2</sup>	整備計画流量 : 湖沼	セグメント : 3
事業 : 環境整備	事業開始年度 平成16年度	
目標設定 : 定性的	段階 : D(実施・施工時)	
課題・目的(主な) : 水環境改善、水際域の保全・再生・創出、自然河岸、河畔林の保全・再生・創出		
工法(主な) : 置土(土砂投入)		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮、施工管理、委員会、協議会等の開催		

## 背景・課題、目標設定

### <背景>

中海・宍道湖では、水質観測を昭和48年から行っているが、基準を満たしていない状況が続いている。

その原因として、流入負荷が増加したこと、及び埋立・干拓等により自然湖岸や浅場・藻場が減少し、湖の自然浄化機能が低下したことが考えられる。

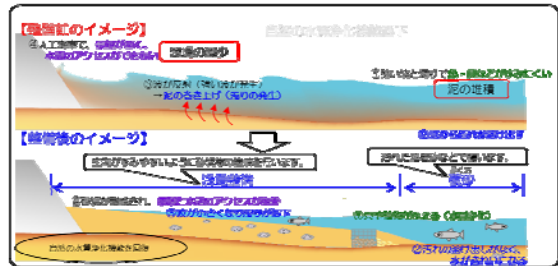
それ故、国は浅場整備、覆砂により、生物の良好な生育・生息環境の保全・復元を図っているところである。

### <目標>

宍道湖では浅場整備、中海では浅場整備・覆砂を実施する。

人工化された湖岸前面の沿岸部に浅場を整備し、波浪による巻き上がりを防ぎ、透明度の向上を図るとともに、

生物の生息環境を再生し、湖の自然浄化機能の回復を図る



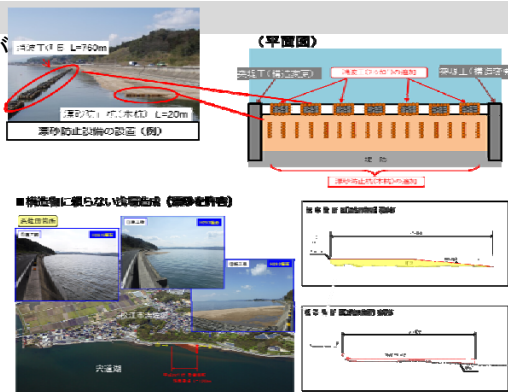
## 取り組み内容・対策例

・当初計画実施後の事後モニタリングにより、整備箇所内の基盤が安定していないことが判明

- ⇒ ① 漂砂防止構造物(木杭など)の設置による底質の安定化
- ② 消波構造物などの設置による波浪抑制



- ・高波浪時は突堤を越える漂砂が発生
- ・消波工等の背後で流れが停滞し、寄り藻や泥質が堆積
- ⇒ 消波工、木杭等を設置する構造の見直し
- ・漂砂箇所のモニタリングも実施
- ⇒ 新たに形成された箇所も、水環境改善効果等が期待される
- ⇒ H27沿岸環境検討会において、漂砂を許容した構造物に頼らない浅場造成への発想の転換



## モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

### <整備効果>

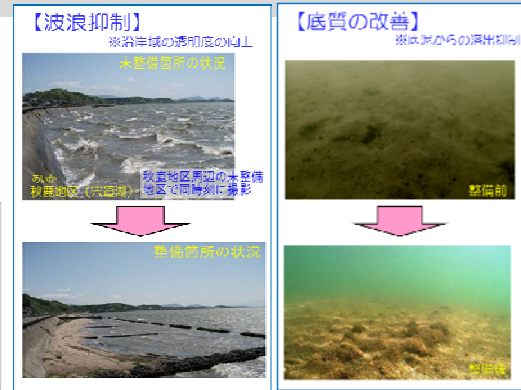
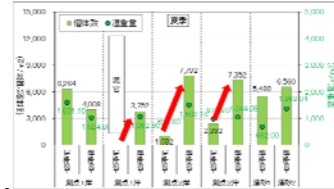
- 浅場整備により、波浪が抑制。また、沿岸域の透明度が向上していることも確認された。
- 浅場整備により、水際環境が改善され、湖岸の自浄効果や景観改善、また、ヤマトシジミ、鳥類等生物の生息状況改善効果が確認された。

- 覆砂により、底質環境が改善され、栄養塩の溶出抑制効果が確認された。

### <今後の対応>

- 引き続き適合的管理により構造の改善を加えつつ整備を進め、湖の自然浄化機能の向上を図る。

■ ヤマトシジミの個体数・遊動量の比較



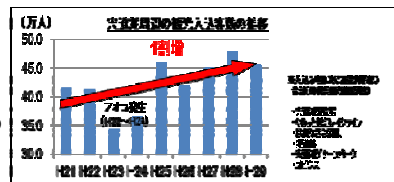
## 備考

### <地域との協働>



ヨシ植栽活動 (春祭イベントとして実施)

- 宍道湖では、過去に浅場造成を実施した箇所において、住民・民間・行政が連携して子供たちを中心に竹ポットによるヨシ植栽活動を実施。
- 良好な水環境が確保されたことで、水辺の賑わいを創出するイベントや遊覧船を利用した観光も促進されており、宍道湖周辺の観光客数も増加。



問い合わせ先 中国地方整備局 出雲河川事務所 工務課

電話番号 0853-20-1760

# 15年目を向かえた中海・宍道湖の浅場 整備 ～適合的管理の成果～

Keywords : 適合的管理, 浅場整備, 湖沼

Before

未整備箇所の状況



宍道湖・秋鹿地区（浅場整備前）



After

整備箇所の状況



宍道湖・秋鹿地区（浅場整備後）

中海・宍道湖の沿岸域環境改善を目的に平成16年度から実施している浅場整備については、現場施工における課題抽出及び解決のための意見交換や、事業の整備効果を踏まえた改善案の検討を行うため、PDCAサイクルにより整備を進めてきた。浅場整備開始から15年目を迎え、より効果の高い浅場整備への展望と課題について報告する。